

横須賀でYBメンバーの作品を鑑賞!

YBの顧問、会員、会友の作品が観賞できる、横須賀市内で毎年開催される展覧会を順次紹介します。皆様、会場に足をお運びください。

「三彩会展」

毎年4月初旬、桜が満開の横須賀市文化会館で開催されます。主催は洋画家三井正登氏が1974年に創設した衣笠洋画研究所で、現所長は田所一紘氏です。ここで絵画を学ぶ生徒たちのグループが「三彩会」です。展覧会では、YB会員の原恭子氏、青木一弘氏、近藤俊子氏、井上雅仁氏、鈴木克之氏らの作品、元横須賀市長澤田秀男氏、講師を務める塩崎淳子氏、所長、そして絵画を熱心に学ぶ一般の生徒たち、小中学生、美大を目指す高校生たちの活力ある作品が展示されます。第44回の2019年は4月4日～9日に開催され、油彩、水彩、アクリル画、イラスト、銅版画、染織等多彩な作品約140点が展示されました。(井上雅仁・記)



「三彩会展」

「みずゑ展」

みずゑ展は川口栄氏が「横須賀の水彩画の向上」を願って創設されました。私、佐藤が事務局を担当したのは1992年、第11回展からで、代表は長島善衛門氏でした。外には、小知和謙一氏、小方昇氏、桑畑義博氏、河村順明氏等でした。懐かしいです。2019年10月に第38回展を湘南しんきんギャラリー「のりま」にて開催。代表は桑畑義博氏。YB会員会友も、池田覚衛氏、池田紀子(としこ)氏、酒井洋子氏、佐野朱美氏、田川武氏、田沼八千代氏、松永三千代氏、三原路子氏、門間米子氏、佐藤順子氏等多数参加しています。絵の実力もさりながら地の利を得まして、来場者数の多いのが自慢です。水彩画の向上という理念は持ち続けています。(佐藤順子・記)



「みずゑ展」

「きさらぎ会展」

毎年9月初秋の頃、横須賀市文化会館で開催されている、きさらぎ会員による水彩画の展覧会です。きさらぎ会は、市の催した講習会から生まれ、YBの顧問もしておられた杉本昌男氏に指導を受けて、1990年2月に創設された会です。先生が亡くなられた後は、会員のクラブ制で運営しており、現在は男女計25名です。2019年展はF4、60号、100点の展示でした。次年度は第30回の記念展で張り切っているところです。YBの会員は現在4名(山下房江氏、町田都美子氏、池田紀子(としこ)氏、池田覚衛氏)、元会員5名(岩切紀年氏、大菅聖一氏、高橋美智子氏、西村忠雄氏、依田純一氏)、8月に亡くなった成田實氏も会員でした。(池田覚衛・記)



「きさらぎ会展」

「アリコ・ルージュ展」

2019年9月22日～28日に「第50回アリコ・ルージュ展」ならびに「奥村憲個展」が開催されました。川口栄先生(横須賀美術協会創立会員、白口会委員、1992年死去)の横須賀洋画研究所門下生油絵展覧会で第1回を米が浜通のオリエンタル画廊で、その後ギャラリー・フ・ルートに代わりましたが、油絵作品中心で、今回7名となりました。これからも先人たちの絵に対する姿勢、思いを胸に絶えずとなく各人が描き続けてまいります。

「アリコ・ルージュ」の由来は、川口栄先生は、1932年、長谷川利光ら6人でアリコ・ルージュ展を開催しています。アリコ・ルージュは画家モジリアーネをモデルにした小説の中で主人公モドリニコという人物の恋人であったと言われています。川口先生は放浪作家長谷川利光のスケッチを見ながら、よくその話をされました。その思いが会の名前になったと思います。(奥村憲・記)



「アリコ・ルージュ展」

SHINGAWA BUNKADO YODOKU STATIONERY PRINTING SERVICE

品川文化堂

印刷館・文具館・印章館

〒238-0008 横須賀市大滝町 1-9
TEL:046-823-1848 FAX:046-823-1830
mail:shinatetsu@shinabun.com
URL:http://www.shinabun.com

あなたの自信作で個展を開きませんか?

Cafe & Bar

ギャラリー 55

〒239 横須賀市根岸 3-7-1
-0807 TEL・FAX 046-836-6562
店主 石渡惣二
http://gallery55.jimdo.com/